

大津市行政改革推進委員会 会議結果

- 1 開催日時 令和6年5月31日（金）15時～16時30分
- 2 開催場所 大津市役所 本館5階 互助会会議室
- 3 出席者 11人（委員6人中6人、事務局5人）
 - ▼委員
赤井委員長、土江田副委員長、足立委員、上里委員、齊藤委員、古崎委員
 - ▼事務局
総務部行政改革推進課
（田中総務部次長、永山課長、龍池課長補佐、西村係長、布施主任）
- 4 次第
 - （1）開会
 - （2）委員長挨拶
 - （3）委員会の公開について
 - （4）議題
 - （1）大津市行政改革プラン2025（仮称）の策定について
 - （5）その他
 - （6）閉会
- 5 配布資料
 - ・次第
 - ・資料1 行政改革プラン2025（仮称）策定スケジュール
 - ・資料2 次期行政改革プラン取組方向・取組項目の体系（案）比較表
 - ・資料3 現プラン→次期プランへの継続・終了理由
 - ・資料4 2025改革実行プラン 効果項目表
 - ・資料5 行政改革プラン2021（概要版）
 - ・資料6 行政改革推進委員会（R5.10.18開催）次期プランの方向性に関する意見
- 6 会議概要
傍聴者 なし

○ 議案第 1 号 大津市行政改革プラン 2025（仮称）の策定について
（事務局から資料に基づき説明）

▼委員

資料 2、3、4、5、6 の内容を 2 つに区切って議論したいと思います。はじめに資料 2、3、4 で、何か項目の再編について、方向性や重要な点などご意見あればどうぞ。

▼委員

資料 2 にある「⑰書かない窓口の検討」は具体的にはどういうことを想定されていますか。

▼事務局

書かない窓口については、一般的に、証明書発行など、同じ窓口でも違う証明書を取得するときは、違う交付申請書に同じ情報を書くことになるので、デジタルの力を使って解消できないかということが、昨今、他自治体においても進んでいます。例えば職員 1 人が来庁者の情報を入力すれば、すべての手続きが一括してできるような仕組みのことです。

▼委員

デジタルの場合、自治体ごとにいろいろな方式を採用すると、コスト負担が大きいと思います。国による一元的な管理がデジタルにはふさわしいと思いますが、どうでしょうか。

▼事務局

最新情報ではマイナンバーカードをスマホに入れて利用するといった試みがあります。そういった国の一元的な動きを捉えながらも、各自治体がそれぞれ検討を進めている状況です。

▼委員

行政の窓口対応等、効率化の話で、今トレンドで A I の活用がありますが、大津市では何か検討等はあるのでしょうか。

▼事務局

A I については、トレンドの 1 つにはなっていますが、しっかりと検討していくべき分野と認識しています。明確に A I を取り入れる、取り入れないという判断をしているところではありませんので、今後検討をして、取り入れられるべきものであれば、順次活用していきたいと所管部局では考えているところです。

▼委員

「5 行政運営の効率化」も、A I を利用するとか、マクロで任せるとか、いろいろ手法があると思うので、今の A I のテーマは、それぞれの中に今後入っていくという理解でよいですか。

▼事務局

今後の取組項目の取り上げ方ですが、「6 スマート自治体の実現」であれば、本市のデジタル戦略で、全庁的な A I の動きなどをまとめています。今後、所管所属の方で、全体のデジタルに関する取組の中から、行財政改革に資するものについて抽出し、ご説明させていただきます。

▼委員

支所での申請手続きについて、その場で書いた申請書類は、一旦本庁の業務担当課の方に確認してから、折り返し証明書類が届くという形で、取得までに時間がかかっていた。スピード化を図っていただきたいということをお願いしたいと思います。

▼事務局

今回、新規の取組項目で、「⑩支所の DX 推進に向けた検討」において、本庁と支所との連携のあり方についても検討していく必要があると思います。

▼委員

日本銀行の政策でイールドカーブコントロールが緩和され、地方債等を含めた借り入れなどを注視しなくてはいけないと思います。その視点で考えた場合、財政指数を将来負担比率等で見っていく可能性が高いと思いますが、その辺りを十分に見切れるのだろうか。このあとに細項目が示されたときには、金利の動きによる影響を考慮した指標を作っていただきたい。2点目として、全体的に項目を整理してもよいという印象を受けました。取組項目の③と④は違和感がないのですが、⑤の未収金の収納率は、この「適正化」の中に入ってくるのかどうか。収納率を確保することで財政を健全に持っていくという視点であれば「1 財政の健全化」に入ると思います。また、さらにデジタル化で、「5 行政運営の効率化」と「6 スマート自治体の実現」の辺りも少し整理してよいのではないかと思います。書き方の順番を工夫されるか、一貫性を持って書かれてもよいのではないかと思います。その中で消防団車両の適正化がなぜここに入るのか。業務マネジメントの適正化であるならば、ここの場所かどうか検討してもよいのではと思いました。最後に 2021 プランの⑭組織横断的な体制整備がなくなりましたが、今後、職員が減少する中で、組織の再編が行われつつある状況だと思います。それが進んでいるならば問題ないのですが、多分組織を再編するということは、どの市町も考えざるを得ない状況があるだけに、この項をなくしてよいのか心配になりました。

▼事務局

最初の金利の変動をしっかりと見ながら、財政的な指標を考えていくべきとのご意見については、所管所属にお伝えさせていただきます。2点目の項目の整理ですが、委員の先生方のご助言をいただきながら行っていきたいと考えます。特に「5 行政運営の効率化」と「6 スマート自治体の実現」では、明確に整理できるよう努めていきたいと考えます。3つ目の組織的な横断体制整備について、施設包括管理業務を横断的に検討できたことで、一旦プランとしての役割、目的は達成したために、終了の評価となっているものです。部局横断的な形をとって事業を推進する土壌ができてきたと思っており、組織横断的な体制を考慮しないと示したものではありません。ご理解いただければと思います。

▼委員

⑬文書削減の推進のところは、デジタル化以外に、そもそも不要なものをなくすことなど、ほかの要素が入っているという理解でよいのでしょうか。

▼事務局

そうです。例えば、自治体の文書保存のルールで、永年保存する文書があると、どうしても書類が多く残ってしまいますので見直しも検討していきたいとしています。

▼委員

消防団の車両の適正化について、入れるのであればここだと思いますが、先ほどの委員の意図としては、消防団車両の適正化に近い取組は他にもたくさんあって、項目として取り上げなくてもよいということだと思われます。なかなか消防団車両の適正化をしようと思っても、で

きてない背景があるということでしょうか。

▼事務局

消防団の中には多様な意見があると思われます。ただ、団員確保の面からも、維持管理であるとか、車両の運転であるとかについて、今後小型化することが重要になってくるであろうということは総論としてあります。

▼委員

もし、方向性が決まっていって、実行するだけなら、あえて入れなくてもよいと思う人もいます。逆にここに入れて、よい面、悪い面を整理して、行革の目が入った形で進めた方がよいという意図的なものがあれば、意味は通るので、ここに入ってもよいと思います。

▼委員

私も消防団の件は、なぜここに1つだけあるのだろうということでは思いました。今のお話も伺って、例えば業務の効率化や改善というところを横に広げていくみたいな項目を1つ作って、その中に消防団の件を入れて、推進していくのも1つではないかと思いました。もう1つ感じたこととして、特に「6スマート自治体の実現」のところの⑰、⑱にある「検討」という言葉が気になります。この4年間で進めるに当たって、本当にここが検討レベルだけでよいのか、スピード感がないと捉えてしまいました。例えば、㉓児童遊園地の管理方法等の検討は、現プランでも同じ言葉で挙げてあり、検討はいつまで続くのかと感じてしまいます。スピードアップして進めていくには「検討」ではない違う言葉がよいと感じました。

▼事務局

消防団の車両の適正化については、その並びも含め、さらに本市としての意向も踏まえて、今後、このラインナップとするかどうか所管部局とも検討していきたいと思います。検討という言葉については、所管所属と調整をさせていただき、どこまでスピードアップできるのか、今後調書をまとめる中で考えていきたいと思います。また、検討だけに取組の内容が留まらないよう、具体的な書き方の調整をしたいと考えます。適切な言葉については委員の先生方の言葉もいただきながら、表現を見直していければと思います。

▼委員

プールや勤労福祉センターのあり方検討はそもそもどちらの方向に行くのかわからないので検討でよいが、書かない窓口や支所のDXは、その方向が決まっているわけで、進む方向が決まっていれば推進でよい気がします。皆さん意見いただきましたので、次の意見交換に進みます。資料5は2021のバージョンですが、前は行政改革大綱では持続可能な都市経営、行財政改革というところを言葉として入れたのですが、どのようなフレームワークで変えていくと、今やろうとしている改革実行プランを表すイメージになっていくのか、その辺りも含め、議論していくという感じで進めます。やはり人口減少がすごく注目されています。人口減少は結局、持続可能性にも繋がってきます。今に合った良い言葉とか、何かヒントを一言ずつぐらい皆さんからいただけたらと思います。

▼委員

この概要を市民の方も目にしたいと思いますし、目にしたいと思っています。そうすると、例えばDXとか、書かない窓口とかもそうですが、行革として、市の職員の、例えば仕事量を減

らすところだけではなく、市民にとって、自分たちのためになっていることが今回のポイントではないかと思います。文章を読んだときに、市民の方がそういうふうを感じるようなところを見せられないかと思いました。

▼委員

共感とかいう言葉を使う場合も多いですね。

▼委員

たくさん項目を挙げていただいて、各項目自体は成程と思うのですが、各項目の対応関係がもう少しわかりやすいほうがよいと思いました。各項目の関連性が、盛りだくさんで、繋がりがわからないような感じがします。

▼委員

大切にする考え方みたいなのが初めに本来あるべきかもしれないですね。大切にする考え方があるって、求められる行政経営が出てくるほうがよい気がします。

▼事務局

現プランはこのフォーマットで作成していますが、見直せないかなとは考えています。少し盛りだくさんであるというところについては、スリム化、見やすさを基本に工夫をしていきたいと感じています。

▼委員

大切にする考え方自体が、どこに入れるのが一番スムーズなのかというところを考えていただければと思います。

▼委員

大切にする考え方が、一番下を書いてあるのですが、それがどう反映しているのか、関係性がわかりませんでした。

▼委員

このプラン自体の背後に、こういうことを考えていますと言いたいものと思います。けれど、それをはじめにやった方がスムーズな気がします。

▼委員

このフォーマット自体については、良いと思います。これから大きな変革をどう考えていくのかというキーワードに依るところが大きいとは思いますが、時代は明らかに金利が動いており、人口減少は著しく、2040 年問題もあります。高齢化の問題を1つとっても、団塊の世代が65 歳に突入する段階から、75 歳に突入することによって、今よりも医療介護の状況は、一人の高齢者が増えるだけでも著しく悪化するということが言われているだけに、これがより緊迫したものに変わるのかどうか、その辺りのことがわかるようにされるとよいと感じます。

▼委員

現プランの作成から3、4 年しか経ってないので、大きく変えるのがよいのかというところはもちろんありますが、同じであれば、反省というか、何がどう生かされているのかという議論もあると思います。変えるべきところは変えていくということが重要でしょう。

▼委員

資料5については、中段にある目標、方向性、大切にする考え方、といった部分が大きく占

めています。改革実行プランでやるべき取組のことが、取組方向の①～⑪の項目に小さくまとめられてしまっていて、関連性がわかりにくいと感じました。追加検討の欄に、改革実行プランをもう少し言葉で表現されてもよいと思いました。また、我々が目指すべきところからスタートして、課題を今後、こういうふうに解決していくという姿勢につなげるとよい気がします。

▼委員

今、皆さんが言われた大切にすることを考える方法みたいなものが先に来ている方が読みやすいのと、改革実行プランの中まで書き出すと、表現は難しいとは思いますが、それぞれがどう対応しているのかということがわかるような形がとれるとよいという気がします。

▼事務局

大切にすることを考える方法につきましては、取組項目を進めるにあたって、どのような意識で臨むのかという点を、チャレンジという言葉や市民に寄り添うという表現で表しています。現プランの構成では、目標があって、目指すべき姿があって、改革実行プランがあって、その実行プランを達成するために大切にすることを考える方法があるという整理をさせていただいたところです。チャレンジについては、ますます行政経営は厳しくなる将来を見据え、職員間でチャレンジという言葉が浸透させても良いのではないかと考えていたところです。

▼委員

大切にすることを考える方法については、方向性が決まったらそれをいかに実行していくかという職員間の考え方というイメージで、市民向けというよりは市内部的な話に近いということでしょうか。また、当時はこれを書かないといけない雰囲気にあるということだったのでしょうか。

▼事務局

市民の皆様にも市の職員はこういう意識を持って取り組んでいるということを示す内容です。また、決してそれがないと職員が動かないということではなく、計画に記載することで、市民にも理解していただきたいとしています。行政改革については、誰かがやればよいというものではなく、皆が意識してやるものであり、若い職員にも浸透できるよう、こういった形で残しているところがあります。

▼委員

チャレンジのあり方が難しいと思います。大津市が大切にすることを考える方法であって、未来を考えましょう、市民のことを考えましょう、そしてチャレンジ。職員がいろいろなことにチャレンジすることも大事ですということを行革プランのどこにうまく入れ込めるかだと思います。

▼委員

いろいろとお聞きしてわかってきましたが、やはり関連性という点において、大切にすることを考える方法が、何に関することなのか。タイトルも大切にすることを考える方法とだけあって、抽象的なので、位置付けがやはりわかりません。改革実行プランを進めていく上での大切にすることを考える方法なのであれば、それがわかるような関連づけをした方がよいと思います。

▼事務局

何か前置きの記載があるわけではないため、読み手の判断によってブレが生じる点はあると思います。そういったブレが起きないように、明確な表現の方法をしっかりと考えたいと思います。また大切にすることを考える方法が本来どこに置かれるべきなのかということも再度検討の必要性

があるとのこと意見をいただけたものと理解させていただきます。

▼委員

行革の先には何か素晴らしい社会が待っているはずなので、その素晴らしい社会は、どういう大切な考え方で成り立っているのか。何かそのゴールを決める考え方みたいに読み取れたりもします。その辺も含めて、また案を練っていただいたらと思います。それでは大体時間となりました。事務局にお返しします。

以上